

2016年1月実績概要（メモ）

（2016. 2. 18）

エチレン製造装置の稼働は高い水準が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 600,900トン

前月比 ▲ 2.1% (▲13,200トン)
前年同月比 ▲ 2.1% (▲13,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	▲ 3.5%	▲ 3.4%
能力増減	-	▲ 4.7%
稼働率変動	+ 1.4%	+ 6.0%
生産増減率	▲ 2.1%	▲ 2.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.1%→当月98.4%←前年同月92.9%
定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働率要因または定修規模差から塩ビ樹脂、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの10品目でプラス。LDをはじめPS、EO、EG、BRなどの7品目はマイナスとなった。

前年比では、主として稼働率要因からLD、HD、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、BR、トルエン、キシレンなどの12品目がプラス。PP、SM、EO、EGなどの5品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、定修入りしたLDに加えHD、PSの3樹脂でマイナスとなった。PPは稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、主として稼働率要因からLD、HD、PSでプラス、PPのみがマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末と年始休暇による営業日数の差もありLD、HD、PPの3樹脂でマイナスとなった。PSは前月の出荷がやや低調であった反動もあり当月はプラスに転じた。

前年比では、前年は原料動向からの様子見により出荷の低迷が続いていた。また、当年は、円安の定着化からの輸入品の減少に対する国産品出荷の増加基調が継続していることもあり、4樹脂ともプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、原料動向等の交易条件面では良好な環境が継続しているが、国内出荷が増加していることとの兼ね合いから、前月比では、LD、HD、PSでマイナス。前年比でもPSを除く3樹脂でマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、4樹脂揃って増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HDは上昇、PP、PSは横這いとなった。在庫水準としては、いずれもやや高めの状態となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LD	+19,900	2.8	3.0
HD	+17,000	2.9	3.1
PP	+30,300	2.8	2.8
PS	+8,000	1.7	1.7

以上